

序

平成10年10月、中門跡の発掘調査に着手して以来、興福寺では、中金堂前庭・中金堂基壇全面そして東面回廊と、中金堂院にかかわる発掘調査がつづいた。回廊は左右相似に構築されたであろうから、これでほぼ、中金堂院の全面発掘を終えたといっても過言ではない。

各年度において、学術的にきわめて貴重な知見を得たことは、既刊の『第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報（Ⅰ～Ⅲ）』によって明らかであるが、本『概報Ⅳ』は、平成14年度に行なわれた東面回廊の東南部分の発掘調査による知見を報告するものである。

これにより、回廊の構造が明らかになったが、そのなか、東面回廊の中央に門が設置されていたこと、および、その規模が確認されたことは、大きな成果であろう。この門は東金堂の中心と一致するから、これによって当山伽藍構築の東西方向の軸線を確定したといえよう。このように今回も、奈良文化財研究所のご協力により重要な知見を得た。ここに、深く謝意を表す。

当山では、これらの発掘調査にもとづきながら、14・15年度において中門の基壇表示などを実施、数年後には、享保2年（1717）の焼失このかた悲願である中金堂の再建事業を本格化させる予定である。大方江湖のご理解とご協力をお願いする次第である。

平成15年2月

興福寺貫首 多川俊映